

第146回簿記検定試験

1級 出題の意図

[商業簿記]

(出題の意図)

今回は、調査研究・出版・流通およびソフトウェアの受託制作を行う企業を前提とした、財務諸表の作成問題を出題しました。

このような業種においては、通常の販売基準のみならず、工事進行基準が適用される場合があります。収益認識を進捗度に基づいて行う会計処理が必要となると同時に、プロジェクトごとに原価を集計する会計処理も必要となります。

問題全般を通じて税効果の会計処理を問う形式を取っています。税効果会計は受験者にとっては難しい領域ですが、今回は、繰延税金資産の額を「将来の課税所得と相殺可能な将来減算一時差異」の金額を示すことによって、法人税等調整額などの金額を比較的容易に計算できるような形式にしました。

減価償却、リース取引、退職給付、税効果に関連する注記事項についても、問を設けました。現在の実務では、財務諸表の本体のみならず、注記において開示されている情報も重要となっています。仕訳によって直接求めることができないものもありますので、財務諸表における認識および測定の限界を考える材料となると思います。

[会計学]

(出題の意図)

第1問では、過年度遡及修正、減価償却、金融商品、キャッシュ・フロー計算書および減損会計の各分野から基本的な概念や処理方法についての知識を問う問う設問を出題しました。これまでに何度か出題実績のある領域に加えて、新しい領域と最近あまり出題されていない領域を織り交ぜて出題しました。いずれも会計学を理解するうえで必須となる専門用語を問う設問ですので、的確に理解して正確に解答する必要があります。

第2問では、通貨オプションをヘッジ手段として予定取引をヘッジした場合の処理について問う設問です。オプション取引は、将来、特定の金融商品を買う権利または売る権利を売買する取引であるため、権利の買い手は権利を行使することも、放棄することもできるところに特徴があります。また、オプション取引をヘッジ手段として用いる場合、ヘッジ手段の時価変動のすべてを繰延処理する方法と、時価変動のうち本源的価値の変動のみを繰延処理の対象とし、時間的価値等その他の変動についてはただちに当期の損益として処理する方法の2つがあります。本問ではこうしたオプション取引の基本処理と、ヘッジ手

段として用いたときの処理についての理解を問いました。

第3問では、吸収分割により、分離先企業が分離元企業の子会社となる場合の、分離元企業と分離先企業の個別財務諸表上の処理と、分離元企業の連結貸借対照表の作成手続きについて問う設問です。こうしたケースでは、吸収分割後も分離元企業の事業に対する支配は継続することとなるため、個別財務諸表上は分離元企業も分離先企業も簿価引継法で処理しなければなりません。連結貸借対照表の作成にあたっては、吸収分割で新たに取得することとなった部分についてはパーチェス法を適用するものの、支配の継続する事業の部分についてはパーチェス法を適用せずに、帳簿価額に基づいて処理します。こうした新規取得部分と支配の継続している部分の処理方法の違いについての理解を問う設問です。

【工業簿記】

（出題の意図）

どちらも部門費計算に関する問題でした。

第1問は、相互配賦法の計算方法と工業簿記の勘定体系を問うています。相互配賦法についてはいくつかの方法がありますが、リード文の説明を的確に読みこなし、どの方法で答えるべきかを判断する必要があります。また、製造間接費の部門別計算をしていることを理解していれば、問3の差異分析や問4の勘定科目の数値推定も解きやすい基本問題だったのではないのでしょうか。

第2問は語句選択の出題形式ですが、(1)は問題文から容易に複数基準配賦法の内容であることがわかるはずです。(2)は『原価計算基準』の34からの出題でした。

【原価計算】

（出題の意図）

第1問は、ABC（活動基準原価計算）を用いた顧客別の営業費分析からの出題でした。理論と計算の両方を問うています。理論（穴埋め）問題では、[資料]にコスト・ドライバー、活動といった用語が出てくるので、それをヒントに高得点をとることが期待される問題です。

第2問は、価格決定と原価計算からの出題でした。価格決定の方式としてはコスト・ベースの価格決定とマーケット・ベースの価格決定の2つのアプローチがあります。2つのアプローチはそれぞれどのような状況で採用されるのか、それぞれのアプローチの特徴と計算法についての理解度を問う問題です。

第3問は、標準原価計算からの出題です。工場生産の主たる担い手が人から設備に変わった企業は少なくありません。設備をどれほど効率的に利用したか、

どれくらい非効率であったかなどをみるために、標準原価差額の分析において、能率差異を速度低下ロス差異とチョコ停ロス差異に分析する能力、操業度差異を段取替ロス差異と故障・停止ロス差異に分析する能力があるかを問う問題です。受験生にとって必ずしも聞きなれない用語が含まれるため、[資料]の(注)でそれらの用語について詳しく説明するとともに、段取替ロス時間と故障・停止ロス時間については[資料]に時間を明記しました。